

令和 2 年度 篠井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、自ら正しく判断でき、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成
 健康で明るい子ども（きたえる） よく考え 自ら学習する子ども（かんがえる）
 すなおで親切な子ども（たすけあう） 根気よく働く子ども（がんばる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

篠井小学校の歴史と伝統を重んじながら、全教職員の使命感と協働の精神を基盤として、次代を担う子どもたち一人一人が、未来社会において多様な人々と共生しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていけるよう「心豊かでたくましく生きる力」を育む教育に取り組み、学校・家庭・地域が英知と熱意を結集し、一体となって「一人一人のよさが輝く活力あふれる楽しい学校」を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) **活力あふれる楽しい学校づくり**
児童にとって、居がいのある「活力あふれる楽しい学校」を目指し、教職員が同僚性と協働性を発揮し、社会の変化に対応する教育活動を推進する。
- (2) **教職員の資質の向上**
勤務時間を意識した働き方と業務改善を推進し、教職員の使命を自覚して自己啓発と研修の充実、専門性と指導力の向上に努める。
- (3) **特色ある教育課程の編成**
地域の実態や児童の特性に即した創意工夫ある教育課程を編成し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を推進する
- (4) **学力の向上**
基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力等を育むために、学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり、児童の学習習慣の確立に努める。
- (5) **豊かな心の育成**
「特別の教科 道徳」や体験活動を核に、あらゆる教育活動を通して、生きる基盤となる道徳性を養うとともに、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。
- (6) **児童指導の充実**
基本的な生活習慣の確立、自己有用感と規範意識の醸成、望ましい人間関係と社会性の育成を図る児童指導の充実に努める。
- (7) **健康・安全教育の充実**
生涯にわたって健康で安全で活力ある生活を実現する力を育むために、自らの身を守るための行動力や判断力の育成、心身の健康や体力の増進、望ましい食習慣の確立に努める。
- (8) **地域との連携強化**
家庭・地域・学校園内の学校及び各種団体、関係諸機関との連携を密にし、地域とともにある学校運営の充実・教育効果の向上・安全確保の充実に努める。

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する晃陽地域学校園
 ー児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指してー

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、学習指導要領、栃木県教育振興基本計画、第2次宇都宮市学校教育推進計画等に基づき、各教科等の教育内容と相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列する。
- (2) 教育活動全体を通じて、人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分考慮しながら、家庭や地域との連携及び協働を深め、社会に開かれた教育課程を編成する。

- (3) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことで、児童の生きる力を育む。
- (4) 小中一貫教育カリキュラムに基づき、家庭や晃陽地域学校園内の各学校との連携を図りながら義務教育 9 年間を見通した系統的、発展的な指導を通して、児童の自己実現に向けて基盤となる資質・能力を育む教育の実践に努める。
- (5) 前年度の教育課程の実施状況を評価・分析し、各分野における学校の全体計画等と関連付けながら教育課程を改善することで、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上に努め、カリキュラム・マネジメントの確立を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 「一人一人のよさが輝く活力あふれる楽しい学校」づくりを目指した知・徳・体の調和のとれた力の育成と自己のよさを生かせる教育活動の推進

【学 習 指 導】

- ・ 確かな学力を身に付け、共に学び合う児童の育成
 - －基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を育てるための指導の工夫を通して－

【児 童 生 徒 指 導】

- ・ 学校のきまりやマナーを守り、互いのよさを認め合い、思いやりの心を持って行動できる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・ 自己の健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成
 - －運動の日常化を図るための教科体育と外遊びの工夫－

6 自己評価（評価項目の A は市共通、B は学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80% 以上	① 基礎・基本の定着を目指す授業を行い、児童に分かる喜びや達成感を味わわせ、学習の意欲付けを図る。 ② <u>児童の興味・関心のある教材を用いたり、課題の設定の仕方や発問を工夫したりする。また、児童の学び合いにペア学習やグループ学習を意識的に取り入れていくことにより、児童が積極的に学習に取り組めるようにする。</u> ③ 自己評価カードを使って、児童の学習への取組について保護者へ状況発信を積極的に行う。	B	【達成状況】指標達成 児童の肯定的回答：94.0% 授業の工夫や朝の学習の充実、及び家庭学習の奨励に加え、マスターカードなどの活用により、児童の学習意欲が増大するとともに、既習事項の確認と達成感を味わわせることができた。学び合いのある授業を意識することで、児童が自信を持ち学習に取り組んでいる。 【次年度の方針】 一人一人の意欲や達成感を大切にしながらマスターカードや分かる授業を継続して実施する。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 80% 以上	① 生活の中で、時と場に応じた言葉使いの指導を推進する。（ふわふわ言葉の推奨） ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動や縦割り班による異学年交流を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。	B	【達成状況】指標達成 児童の肯定的回答：95.0% 学校行事等をとおして、言葉遣いの指導を行うとともに、清掃活動では、縦割り班活動を推進することで、互いに思いやる心の醸成を図ることができた。 【次年度の方針】 思いやりの心を言葉でも表現できるように、ふれあい班活動を通して思いやる心を育むとともに、各種行事においても指導の重点とする。

児童の姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 全職員の共通理解に基づき、基本的な生活習慣の形成と社会規範及び責任を果たそうとする態度の育成に努める。そのため、「篠井小よい子の約束」の順守と毎月の振り返りによる習慣化の徹底を図る。 ② <u>生活目標の達成を目指し、振り返りによる指導も徹底する。</u> ③ 授業、学校行事など毎日の生活の中で、時と場に応じた態度や行動の指導を行う。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定的回答：88.0% 昨年度の児童の肯定的な回答81.7%を上回り教職員、保護者、地域の肯定的回答も90%以上を保っている。 【次年度の方針】 学校園での共通課題や「篠井小のよい子の約束」を今一度確認し、毎週的生活目標を意識した生活の習慣化を図る。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童を主体とした年4回のあいさつ運動を実施する。<u>地域学校園においても、年2回、時期を合わせてあいさつ運動を展開する。振り返りカードの活用や表彰により実践意欲を高める。</u> ② あいさつの意味や大切さについて考えさせる機会を設定し、進んであいさつをしようとする態度を育てる。	B 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：88.7% 保護者の肯定回答が約5ポイント上昇した。さらに、教職員、児童の肯定回答は95%であり、あいさつに関する意識の定着が見られる。 しかし、地域住民の肯定回答は約13ポイント下降している。 【次年度の方針】 校内での活動や学校園での取組を継続しつつ、学校・家庭・地域が一体となって実践できる意識をさらに高めていく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 地域と協力してボランティア活動や地域の行事に参加するとともに、ボランティアに参加した児童を称賛し、意欲の持続と高揚を図る。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：88.0% 学習や学校行事において、粘り強く取り組むことの重要性を事あるごとに指導してきた。 【次年度の方針】 学校生活において児童の主體的な活動を推進するとともに、学校行事等において児童の創意工夫を生かした活動の充実に努める。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 警察署や駐在所、消防署の方と連携した防犯教室、避難訓練を実施し、防犯・防災意識を高め、適切な意思決定と行動選択ができるようにする。また、大規模自然災害時の引き渡し訓練等、保護者との連携体制の強化に努める。 ② 食育だより、保健だよりを毎月1回発行し、栄養面を含め食育や健康に対する家庭の意識の高揚を図る。	B 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：93.3% 交通安全教室や避難訓練を実施することで児童の安全に対する意識を高めた。また、各種たよりをとおして家庭への啓発活動を行った。 【次年度の方針】 防犯意識や防災意識の高まりが見られているので、今後も活動を継続する。健康や栄養に関する意識は改善の余地が見られるので、家庭と連携しながら取り組んでいく。

A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 地域と協力してボランティア活動や地域の行事に参加するとともに、ボランティアに参加した児童を称賛し、意欲の持続と高揚を図る。	B 【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：90.5% 学習や学校行事において、粘り強く取り組むことの重要性を事あるごとに指導してきたため、A5における児童の肯定回答とほぼ合致する回答が得られた。 【次年度の方針】 学習や普段の生活、学校行事を通して、成就感や満足感を得る体験を積み重ね、夢や目標に向かって取り組もうとする意欲を育む。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	A 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：96.0% イングリッシュ集会を行い、英語を使って異学年交流を行うことで英語に親しむことができた。ALT とも連携した外国語活動を実施し、指導力の向上を図ることができた。 【次年度の方針】 校内研修を充実させ、児童のコミュニケーション力の向上を図る。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① かさまつ祭の中で、地域学習の成果を保護者や地域に発信する場を設け、宇都宮の良さに対する理解を深めさせる。 ② 『宇都宮学』に関する研修を行い、教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：89.0% 3年生の社会科の学習を想起し児童の肯定回答は高いが、保護者の肯定回答は71.4%と低く、教職員の肯定回答は76.2%と13%下降した。 【次年度の方針】 各種たよりを通してその取組内容を示していくとともに、『宇都宮学』の内容の充実を図る。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書室を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	A 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：96.0% パソコンを活用した授業の推進や、パソコン室のタブレットを最大限に生かした授業展開を図ることで、児童のICTへの意識は高まるとともに、計画的に希望図書を利用し授業に活かすことができた。図書室において各種イベントを企画し、児童の意欲の喚起を図ることができた。 【次年度の方針】 保護者の肯定回答は84.5%と9ポイント上昇している。活用状況を積極的に発信するとともに、授業においてICT機器や図書を積極的に活用していく。

	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 ⇒教職員肯定的回答 80%以上	①学校行事や交流活動を通して、時と場に応じた言葉使いやふわふわ言葉の指導を推進する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。	B 【達成状況】指標達成 教職員の肯定：100% 学校行事や交流活動（高齢者との活動）において、他者への思いやりの心の醸成を図ってきた。計画の段階においても、児童にどのような配慮が必要か考えさせてきた。 【次年度の方針】 保護者の肯定回答が93.2%と13ポイント上昇している。特に交流活動の取組内容を積極的に発信し、人権教育に関する取組も、学校行事と関連させながら進めていく。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育やみやエコスクール等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 環境教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して計画的に実施する。 ③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：92.9% 外部との連携を図った環境教育を実施し、児童の意識は向上した。教職員の肯定回答は81.0%で8.5ポイント下降した。 【次年度の方針】 5年生の総合的な学習を中心に環境教育に力を入れるとともに、年間指導計画に基づき、環境と調和しながら生きていくことの意識や態度の育成に努める。
	B1 教職員は、安全に対する判断力と行動力、危険予知能力の育成に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、登下校の時や、学校・家庭で安全に心がけて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①警察署や駐在所、消防署の方と連携した防犯教室、避難訓練を実施し、防犯・防災意識を高め、適切な意思決定と行動選択ができるようにする。また、大規模自然災害時の引き渡し訓練等、保護者との連携体制の強化に努める。 ②各学年の児童の実態に応じた交通安全教室を実施し、交通安全の意識を高める。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：97.0% 交通安全教室や避難訓練を実施することで児童の安全に対する意識を高めた。また、各種たよりをとおして家庭への啓発活動を行った。 【次年度の方針】 実際の場面を意識した活動形態を工夫し、自ら考えて自分の身を守ることができる判断力の育成に努める。また、普段の生活から自分で考えて安全に過ごせるように指導する。
目指す学校の	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100% スクールカウンセラーとも連携しながら特別な支援を必要とする児童や保護者のニーズに合った支援を検討し実施してきた。 【次年度の方針】 特別な支援を必要とする児童への支援を継続してきたので、通常の学級における個別支援に関しても、より一人一人のニーズに合った合理的な配慮について研究していく。

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① <u>道徳の授業や学級活動において、生命尊重やいじめを題材にした授業を、全クラスが学期に1回実施する。</u> <u>また、学校生活全体を通して、自分の大切さとともに他の人の大切さを理解させる。</u> ② いじめゼロ強調月間（5・9月）を設定し、いじめゼロ集会（5月）の開催や児童から募集した標語・ポスターの掲示を行い、行事・係活動等を通して、思いやりの心をもって助け合うことの大切さを理解させる。 ③ 異学年交流活動等の中で、複数の教職員が児童の様子を観察することを通して、いじめの早期発見と迅速な対応に努める。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：98.0% 生命尊重や自他の敬愛について、道徳の授業をはじめ、各種集会をとおして訴えかけた。ふれあい班活動や異学年交流を実施することで、実践的な態度の育成に努め、学校での取組や保護者との連携への理解が深まっている。 【次年度の方針】 今後も、道徳の授業を中心に人権を高める指導を行うとともに、児童の心に訴えかける授業展開の研究を深める。また、いじめ問題の未然防止・早期発見・早期解決と、迅速な対応を目指し、組織的な対応や保護者との連携をさらに強化していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① <u>児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</u> ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体での情報共有を図る。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：96.0% 学校園で連携し、自己肯定感を高められる認め励ます指導や、児童相互で認め合う場を設定するなど、積極的な学級経営を行ってきた。 【次年度の方針】 不適応傾向や不登校の兆候が見られる場合もあることから、教育相談や各種調査を効果的に活用するだけでなく、保護者との連携を常に心がけていく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100% 外国人児童生徒の割合は低いが、一人一人の実態に応じた取組を行うとともに、互いを認め合うことを大切に学級経営を行ってきた。 【次年度の方針】 必要に応じて専門的なスタッフと連携し、個別の支援計画に基づいて系統的・計画的で組織的な支援体制作りに努める。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 創意ある活動の時間を教育課程に位置付け、教育活動にゆとりと広がりを持たせるようにする。 ② 学校行事や縦割り班活動等は、ねらいを明確にした計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにする。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：86.0% ふれあい班でのなかよしタイムなど日常的に異学年との交流が行われ、自己有用感の向上が図られた。 【次年度の方針】 達成感や充実感を感じる学校行事やふれあい活動を継続していくとともに、一人一人の良さを認めたり伸ばしたりする環境作りに努めることで、児童が生き生きと活動できるようにしていく。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① <u>基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の能力を育成するために、学習内容に応じた学習形態の工夫や教材・教具の工夫を図り、個に応じた学習指導を充実させていく。</u> ② 学習内容のまとめ方の工夫や児童による学習の振り返りにより、学習内容の確認と児童の学習状況をつかむことで適切な指導・支援に生かしていく。	B 【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：94.9% 学校園全体で基礎・基本の充実に取り組み、学力の向上を図ってきた。また、基礎・基本のさらなる充実に努め、マスターカードに取り組んだ。 校内研修を行い、効果的な学習形態の工夫や基礎基本の定着に努めた。特別支援教室や少人数指導により個に応じた指導が充実した。 【次年度の方針】 学業指導の充実に努め、授業に向かう積極的な姿勢を強化するとともに、一人一人に配慮したきめ細かな指導の充実に努める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 教員と専門性を有するスタッフとの間で、それぞれの役割を明確にし、連携・分担を適切に行うことで、学校の教育力が向上するようなコミュニケーションに努める。	B 【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100% 本年度もスタッフが充実し、それぞれの役割分担を明確にしたことで学校全体の教育力が向上した。 【次年度の方針】 職員の相互理解を深めるコミュニケーションに努め、組織として業務に取り組める体制を整えるとともに、役割分担の更なる明確化に努める。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識するとともに、校務分掌の見直しや人員の配置を工夫し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 専門性を生かした教育活動を充実させ、「チームとしての学校」を推進し、学校内外の多様な人材が能力を発揮し、それぞれの専門性を生かした活動を展開する。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	A 【達成状況】指標達成 教職員の肯定回答：100% 研修の集約や勤務時間を意識した会議の持ち方を工夫するとともに、専門的なスタッフを効果的に活用することができた。 【次年度の方針】 一人一人の意識改革を推進するとともに、諸教育活動の見直しや、校務分掌の見直し・複数配置等を行うことで、今以上に児童への指導の時間を確保することに努める。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① <u>学習習慣確立のために晃陽地域学校園として設定した「あいさつ・返事・姿勢」について、小中9年間継続指導を行う。</u> ② <u>5年生の冒険活動や6年生の中学校訪問の機会をとらえて小中交流活動を行う。</u> ③ 学校だよりや学校園だよりを活用し、取組の内容を、積極的に発信するとともに、家庭においても協力してもらえるように啓発する。	B 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：84.2% 各種たよりを通して学校園での取組を発信している。また、乗り入れ授業を行い、中1ギャップの解消に取り組んだ。 【次年度の方針】 学校園での取組を積極的に発信するとともに、あいさつ運動などでは、機会をとらえて地域や家庭においても協力していただくように啓発する。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	① 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。 ② 街の先生（学校ボランティア）の活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。 ③ 地域内の篠井冒険活動センターや篠井保育園と連携した交流活動の充実を図り、様々な体験学習を実施する。	A 【達成状況】指標達成 地域住民の肯定回答：86.7% 感染症拡大防止のため、回数は限られたものの、地域協議会の協力のもと、地域の団体と連携した「交流学习」や「みどり活動」などを実践することができた。 【次年度の方針】 今後も、地域の団体の協力を仰ぎ、児童の学習内容を検討しながら、人・自然・地域とのかかわりを通じた活動の充実に努める。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。 ② 街の先生（学校ボランティア）の活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。 ③ 出前授業や民間企業と連携した活動を年計に位置付ける。 ④ 授業参観、フリー参観及び学校行事を活用して学校の取組を披露することで、学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる雰囲気醸成する。	B 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：86.7% ふれあい活動やクラブ活動、地域のりんご園見学学習など、地域の教育力を活用して、各教科や様々な教育活動と関連した取組を実施した。 【次年度の方針】 肯定回答は高いが、より取組の実態を理解してもらえるように、保護者に実施した活動について引き続き各種たよりや、学校ホームページ等で保護者に積極的に周知を行う。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等のチェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：94.8% 各種マニュアルを整備し、安全点検の結果をできるだけ素早く反映させてきた。季節ごとの対策についても、早めに保護者に連絡し、予防に努めてきた。 【次年度の方針】 それぞれの取組が浸透し、相互に信頼関係が見られるようになってきた。今後も職員間や保護者と共通理解を図り、不測の事態に対応できるように体制を整えていく。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	A 【達成状況】指標達成 保護者の肯定回答：84.5% プログラミング教育の開始に合わせ、ICTを活用した授業を増やしてきたことで児童がICT機器を積極的に活用するようになった。 学校図書館の環境を整えたり、計画的に教科書の内容に沿った蔵書を充実させたりすることができた。 【次年度の方針】 引き続き、ICT機器・読書に関して、児童の意欲を喚起する取組を継続して実施するとともに、整備環境の充実に努める。学校司書を計画的に授業での活用を図る。

本校の特色・課題等	B2 心の交流を図り、豊かな人間性の育成を推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、『みどり活動』『ふれあい班活動（なかよしタイムでの遊び等）』に対して積極的に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① みどり活動の積極的推進に努め、自然への理解を深め、自然愛護の心や態度の育成を図るとともに、みどり・農園活動を通して、勤労・生産・収穫の喜びや望ましい人間関係を育成する。 ② 縦割り班（ふれあい班）活動を推進するとともに、清掃をはじめとした他の活動にも縦割り班の体制を取り入れることにより、心の交流を図り、心豊かな人間関係を育成する。	【達成状況】指標達成 児童の肯定回答：93.9% 全校生でのみどり活動に加え、委員会活動の工夫により、児童の人間関係の育成を図ってきた。 縦割り班活動を充実させることで、より良い人間関係作りにつながった。 【次年度の方針】 みどり活動においては、児童の実態や地域の実情に合わせて改善しながら、縦割り班活動の特色を生かせるようにしていく。また、他の活動においても、縦割り班活動の良さが発揮できることはないか検討を重ねながら実践していく。
-----------	---	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全ての指標において数値目標を達成し、全体的に肯定的な回答の割合が多い結果となった。本校の教育目標である『きたえる』『かんがえる』『たすけあう』『がんばる』が具現化され、教職員や児童自身が成長を感じていることがうかがえる。保護者や地域住民にも一定の評価が得られているので、引き続き積極的な取組と情報の発信を継続し、学校教育活動への理解を深めていく。

市全体のアンケート肯定的割合と比較するとおおむね同等の程度であったが、A17「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」は地域住民、児童の肯定的回答が若干低めの結果となった。引き続き特色ある教育活動を推進するとともに児童が主体的に活動する場面の設定に努めていきたい。

○A2、A11「児童は誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」において保護者の肯定的回答が前年度80.0%から93.2%と大きく上昇した。教職員、地域住民、児童の肯定的回答もそれぞれ93%を越えており、取組の継続の結果、豊かな心の育成が図られ、様々な場面で児童の良さが発揮されていることがうかがえる。

・A10、A25の「児童はICT機器や図書等を学習に活用している。」は昨年度の保護者の肯定的回答75.4%から今年度は84.5%と大きく上昇し、教職員、児童の肯定的回答も95%を越えている。来年度は、GIGAスクール構想による一人一台端末の活用が本格化する。引き続き図書の活用とともに取り組んでいきたい。

・A9「児童は宇都宮の良さを知っている。」は、児童の肯定的回答は89.0%と前年度よりも高くなっているが、教職員の肯定的回答は76.2%、保護者は71.4%と肯定的回答の低さが目立つ結果となった。本年度始まった宇都宮学をより充実させていくとともに、校外学習や地域の方とのふれあい活動等で住んでいる地域での交流をさらに深めていきたい。

・A21「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。」では、教職員、児童の肯定的回答はほぼ5%上昇したが、保護者、地域住民の回答は下降するという結果となった。小中合同でのあいさつ運動や乗り入れ授業、情報交換を継続して実施していくとともに、各種たより等でも積極的に情報を発信し理解を促していきたい。

7 学校関係者評価

- ・昨年度より高い評価が多くなっていることに、教職員の方々の大変な努力を感じています。子どもたちが安心して生活できる環境を提供するのが私たちの最大の責務と考えますので、今後も協力させていただきます。
- ・コロナ禍の中、ありがとうございます。「宇都宮学」と合わせて「篠井学」をよろしくお願いします。
- ・地域協議会に参加して学校行事やいろいろな活動に地域の方がどう関わっていただいているのか実感しました。今年度はコロナ対策を徹底しながら学校生活、行事の実施等、本当にありがとうございました。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度は感染症対策のため、行事等の変更や、保護者・地域の方々に協力を依頼することも多かったが、学校の取組について理解を得て教育活動をすすめることができた。

○地域の良さをいかした持続可能な教育課程の編成を目指し、特色ある教育活動の「みどり活動」についても見直しを行っている。引き続き地域の方々の協力を得ながら、より児童が主体的に活動できるような取組を進めていきたい。

